

外科研修プログラム

一般目標(GIO)

外科診療に必要な基本的な知識、考え方、手技を取得し、患者、医療従事者と良好なコミュニケーションを取りつつ、それを診療で実践すること。

具体的目標（行動目標 SB0 s）

1. 正確な病歴の聴取と理学所見を取ることができる。
2. 必要な検査を理解し、結果を解釈できる。
3. 得られた情報をもとに治療方針を提示することができる。
4. 各疾患の手術適応を理解できる。
5. 手術に必要な解剖、生理学を理解できる。
6. 手術の助手を務めることができる。
7. 周術期の全身管理ができる。
8. 周術期に影響を及ぼす併存疾患について理解し対処することができる。
9. 化学療法の適応、副作用を理解し、化学療法中の管理を行うことができる。
10. 安全管理指針に沿った診療を行うことができる。
11. 院内感染対策を理解し実行することができる。
12. 患者の苦痛、患者の取り巻く社会的背景を含めた問題を理解し、患者に寄り添った診療を行うことができる。

方略(LV)

1. 指導医、上級医とともに受け持ち患者（10-20 症例程度）担当する。
2. 病棟研修：
 - ・受け持ち患者の毎日の経過を観察し、病態を把握してカルテに記載する。
 - ・指導医、上級医とともに処置、検査、治療に参加する。
3. 手術室研修
 - ・受け持ち患者の手術に参加する。
 - ・受け持ち以外の手術にも可能な限り参加して、基本的手術手技と解剖を学ぶ。
 - ・麻酔導入時より、手術終了後、病棟搬送の間まで患者の状態を観察する。
 - ・摘出標本の整理を通じて、病変の広がりや形態を理解する。
4. カンファレンスへの参加：
 - ・各種の画像診断について学ぶ。
 - ・受け持ち患者の病態をサマライズしてカンファレンスで発表する。
5. 院内の講習（CPC、安全管理研修、感染管理講習会、研修医講義など）を受講する。

評価(LV)

EPOC 及び評価表を用いた研修医、指導医、コメディカルによる相互評価を行う。